

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームあみーご鴻之台
所在地 (県・市町村名)	三重県名張市鴻之台5番地10番町
記入者名 (管理者)	長谷川 加奈
記入日	平成20年4月8日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>今春、利用者と職員で新しく理念を作成する。どこにでもあるごく自然な家族のように、温かくて優しい、地域に溶け込んだ家庭的なグループホームを目指している。</p>	○	<p>利用者がその人らしく生活できるように、利用者を取り巻く方々に協力を頂き、みんなで作った基本理念を大切にしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>今春、利用者の意見を聞き、職員全員で作成したので、理念の共有はできているが、実践はこれからの課題である。</p>	○	<p>基本理念と初心を忘れず、職員同士で確認し、話し合い、全員が同じ気持ちで向上していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には理念を浸透するまでに至っていない。</p>	○	<p>事業所が果たそうとしている事や役割を浸透させるため、家族をはじめ、地域に対して繰り返し理念を伝えていきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣者と挨拶程度は交わしているが、気軽な付き合いはできていない。</p>	○	<p>施設から外へ出向き積極的に交流して、地元の住民に気軽に立ち寄ってもらえるよう、馴染みの関係を作っていくたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭りや自治会、自治会の行事等に参加している。</p>	○	<p>地域で行なわれている行事等に職員だけでなく、利用者や家族の参加を呼びかけ、地元の人と交流していけるように努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、行なえていない。	○	地域で行なわれている介護予防教室や老人クラブ活動に出向き、ボランティアとし活動したり、知識を活かし介護相談にのるなど、地域に貢献できることを考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にあたり職員会議を開催し実施する意義を理解したうえで、各項目に担当者をつけ、自己評価及び外部評価表を作成する。	○	一年間を通して取り組んでいきたい内容を職員をはじめ、利用者や家族、地域の方々と共に考え、各担当者がリーダーとなり、積極的に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進委員会は実施できていない。	○	遅れ馳せながら、4月中旬に実施予定である。定期的な開催を行なっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	二ヶ月に一度の介護相談員の来所があり、報告書をもとにサービスの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加しているが、勉強会などについては行えていない。	○	研修の参加や事業所で勉強会を開き、職員の理解を深めたい。また、利用者、家族等に情報提供できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、事業所内で虐待を見過ごされることがないように、注意を払っている。	○	研修の参加や事業所で勉強会を開き、職員の理解を深めたい。また、高齢者虐待防止関連法や虐待発見時の対応方法についてなど、事業所で周知徹底していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来所をお願いし、契約を結んでもらっている。入居時の説明は行なっているが、入居後、起こりうるリスクや重度化が進んだ場合の対応については明確に説明できていない部分がある。	○ 来所してもらっただけではなく、事業所から利用者宅に訪問したり、事業所のできることを、できないことを明確にし、入居前に十分なオリエンテーションを行なっていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の不満や苦情はその都度受け付け、速やかに改善を行なっている。意見等がでたときには、カンファレンスを開催し、改善方法を検討している。	○ 介護相談員の来所時に利用者の相談に乗って頂き、それをもとに意見を取り入れていきたい。また、利用者の要望や意見を出してもらえる場を設けたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や電話、またおたより等を定期的に配布し、必要に応じてはその都度行なっている。	○ おたよりだけでなく、個別の報告もPCメールや電話などで様子をきめ細かく報告できるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者に意見や苦情を表せる場があることを説明、文面に表し配布している。また、玄関に意見ボックスを設置している。また、年に2回、家族会を開き意見を聞く機会を設けている。	○ 家族が意見等を「言いたい」と思ったときに受け入れられる体制をとれるようにしたい。家族等の意見や不満・苦情など前向きに受け止め、サービスに反映させていけるよう努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の総合会議を開いて意見交換をしている。必要に応じて、個別面談を行うようにしている。また、提案用紙を配布し、意見や改善提案を言えるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人のニーズや生活時間に合わせ、ローテーションを組んでいるが、夜勤ができる職員が偏りがちなため、無理な勤務になる場合がある。	○ 利用者や家族の状況変化や要望に柔軟な対応ができるよう、職員を確保し、育成に努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職が目立つため、馴染みの関係が固定化できていない。	○ 職員の働きやすい環境を整え、利用者、家族との信頼関係を築くためにも固定化に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修参加。職員会議の中に報告会を設けて発表をおこなっている。スーパーバイザー中堅、新人職員が集まり、施設内研修を行なうようにしている。	○ 業務に追われている時等、施設内研修に取り組む時間が作れないときには今まで通り、書面や口頭できめ細やかに進めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所同士の交流がスムーズに行なわれていない。	○ 縁のある同業者、または初対面に関わらず積極的にお願ひし、交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場の職員同は日々顔を合わすのでコミュニケーションが保たれているが、運営者、管理者とは、意思の疎通が図れていない部分がある。	○ 意思の疎通が取れていないことで、職員のストレスが増していかないように、工夫を凝らし、チームワーク優先で取り組みたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格習得に向けた支援を行い、職員の向上心を前向きに評価し面談の場を設けている。	○ 面談の実現にはやや期間が空いており、時には把握しきれない点も多くあるので、前向きに調整していきたい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回実調時に居宅において本人自身からよく機会がある。	○ 本人が話しやすい状態になるような雰囲気作りをしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込みは家族によりされるのがほとんどの為、信頼関係作りの努力をしている。	○ 家族が話しやすい状態になるような雰囲気作りをしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設が本人にとって適切かどうかを見極めて同時に介護老人福祉施設等の申し込みを勧めている。	○	本人にとって当施設が適切かどうか会議を開き、検討していきたい。また、どの介護サービスが適切か、他の事業所を含め話し合う場を設けたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に施設利用を納得してもらえるよう家族より話してもらうようにしている。手続き後、すぐに入所に至る場合が多い。	○	すぐに利用になった場合は家族等に協力をお願いし安心感を持ってもらったり、本人と家族で見学に来てもらうなど、馴染みの関係を作ってから利用につながるように体制を整えたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に一緒に過ごす姿勢や気持ちはあるが、利用者ができる事もつい職員が手伝ってしまっている事がある。支えあうという部分ではまだ構築されていない。	○	支援する側、される側という意識を持たず、お互いに協働しながら和やかに生活できるように、場面作りや声かけ、職員の教育を行なっていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設にすべて任せている。といった考えが残っている。受身になっておられる家族もあり、事業所がグループホームとしての役割を伝えきれていない部分がある。	○	グループホームの役割やあり方を改めて考え直し、家族と協力して利用者を一緒に支えていける関係を構築していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等に家族を誘い、参加して頂いている。本人の訴えがあったときや行動が見られたときには、家族にお伝えし、一緒に過ごしてもらえるように働きかけている。	○	利用者と家族の潤滑油になれるように心掛けたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に外出されることはあるが、一部の利用者であり、知人や友人とつながりを持っておられるかたは少ない。	○	ふるさと帰りなど実施していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者の中に入り、支え合って生活できるよう努めている。	○	職員が調整役となり、利用者同士の関係がうまくいくように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方に、時々会いに行っている。	○	他の事業所へ移られた方にも、利用者と会いに行ったり、事業所に来てもらったり出来るようにしたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週1回のケースカンファレンスを開くようにして、利用者の日頃の意向を収集のうえ検討している。	○	センター方式を導入し、利用者本位の暮らしができるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設でその人らしく生活をしていただくために、趣味や得意なことを把握し、楽しんでいただいている。	○	センター方式を導入し、今までの暮らしを把握し、その人らしい暮らしが続けられるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ADLの低下につながらないためにも、その人にあった一日のリズムを把握している。	○	センター方式を導入し、現状を把握し、その人らしい暮らしが続けられるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時や家族会等で介護計画を見ていただき、ご意見を頂くようにしている。本人には、普段の生活や日頃の会話から要望をいただいている。	○	日頃から職員間で利用者についての情報交換を密にし、家族には来訪時や定期的に意見を聞き、介護計画に活かしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っているが、現状に即した介護計画は作成できていない。	○	急な変化が生じた場合には利用者や家族、必要な関係者等と話し合う場を設け、検討、見直しをして現状に即した介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録やカンファレンス記録をもとに、次回の介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じ、通院や日帰り旅行、外食など、外出支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れや市のふれあいセンターに週1度外出する機会を作っている。	○	民生委員等との意見交換する場を設けたい。また、公共施設を活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、本人や他のサービス利用の希望はないが、事業所の介護支援専門員が他の事業所の介護支援専門員との連携を取っているため、支援できる体制となっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例や事業所で解決できないことなど、地域包括支援センターに相談をしている。	○	包括支援センターの職員や一般住民等に運営推進会議の参加をお願いし、人的ネットワークを作って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関への通院を説明している。家族の希望や医師の勧めがあれば、以前からのかかりつけ医で医療を受けられるように対応している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	引き続き、家族の協力を頂きながら、入居者の変化に応じて、投薬内容の変更や相談をしていきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	協力医療機関とに密な話し合いが今後必要となる。その他、訪問看護、往診、入院、他の事業所への転移など可能なサービスを利用できるよう体制を整えていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期について知識を得られるよう研修や勉強会への参加をしていく。現在対応している終末期の利用者への対応を貴重な経験としたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	家族が他の事業所へ入所、入院を希望させたり、また本人や家族にとって他の事業所へ移られたほうがよいと判断した場合には施設として出来る限りのアドバイスをを行い、転移先にも情報提供している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を否定するような言動をしないよう実践し、新しい職員の教育に努めている。個人情報の記録等については事務所で管理し、閲覧は事務所内のみとする。不要になった個人情報の記録等はシュレッダー処理を行うなど、プライバシーの保護に努め、外部に漏れないよう、個人情報の取り扱いには注意している。	○ 利用者に応じた適切な言葉を選び、ひとりひとりを尊重していきたい。また、職員が個人情報保護法の理解し、秘密保持の徹底に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自己決定できる場面をつくり、また意思表示が困難な方には表情を読み取り、見極めの対応をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、起床時間や食事、入浴は体調や気分、希望に添い、ひとりひとりのペースに合った支援を行なっている。	○ センター方式を導入し、個別の好きなことや趣味など暮らしに生きがいを持っていただけるよう充実させていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	業務に追われて職員が着替えや洗濯物を片付けてしまうことがある。理容、美容は行きつけや訪問ボランティアにお願いしている。	○ 出来る限り、ゆったりとした時間の中で利用者自身で身支度していただき、季節に合わせて色やデザインを楽しんで頂きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開設当時の利用者のADL、QOL共に低かったため、食事の支度を促すのが困難であったため、現在は業者をお願いしている。	○ ADL、QOLの向上に努め、季節折々の旬の食材を利用者と共に選び、料理すること、一緒に食べることを楽しみたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者さんに応じた嗜好品を購入し、必要にお出ししている。	○ 嗜好品の購入にも立ちあっていたいただき、選ぶ楽しみを味わって頂きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の訴え、あるいは動作によって排泄のタイミングを図って誘導している。	○ 誘導を促さなければいけない利用者には、コンチネンタルケアを充実させていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲のより利用者には出来る限り同じ日に入浴して頂き、入浴の苦手な利用者には気分の良い日等に入浴していただいている。	○ 入浴時間に幅がないため、少し慌ただしく入浴していただいている時もあるので、時間に幅を持たせたり、利用者に合わせて入浴を実施できるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日の暮らしの中で出来るだけ楽しめるようないつもの流れに変化のあるように、つどい等を取り入れ、日中に楽しんでもらうようにしている。	○ 利用者に寛いで頂けるスペースを豊かにし、居心地よさの向上を目指したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭いじりや園芸の好きな方には花壇づくりや庭の手入れをして頂き、掃除を好まれる方には利用者の中心となって掃除をしていただくなど、利用者に合わせて支援している。	○ もっと家族との接点を増やし、昔されていた仕事や趣味を活かし、楽しんでいただける生活を支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を所持されていても、職員が買い物のときについで買ってきてしまう。買い物に同行される方も限られている。	○ お金を預かって職員が買い物をすませしてしまう傾向にあるので、利用者にも買い物を促し、自ら払っていただく事を楽しんでもらいたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出される方が偏っているため、事業所の中だけで過ごされている方もいる。外出の好きな方には満足していただけている。	○ その方に合わせて意欲のそそる外出支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天気の良い日には行事計画を立てた上で家族に確認し、実施している。	○ 利用者、職員での外出等は実施しているが家族等に参加には至っていないので計画を立て、協力を促したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話は職員が手助けし、実施しているが電話で落ち着いた環境整備がなされていない。	○	年賀状等、事業所から利用者、家族にお伺いし、忘れられていた習慣も楽しんで頂けるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族にはなるべくアットホームな雰囲気の中で利用者とお話いただける様、心掛けている。	○	職員の支援で満足して頂いているか再検討し、より良い環境で訪問していただける様、支援していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りにて職員が自覚しない身体拘束がないか適切なケアの共有をケアカンファレンスにて進めている。	○	研修等に参加に加え、施設内での勉強会を行い、身体拘束をしない、させない為の教育や環境を整えていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯はセキュリティを利用し、施設から出入りすれば利用者の所在が確認できるよう安全管理に努めている。玄関はオートロックの鍵となっており、自然と鍵がかかるようになっているが、日中は危険がない限り、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態を把握し、安全面を考慮したうえで、個別に対応している。	○	ミーティングやカンファレンスの中で利用者の状態を把握し、安全面を考慮したうえで、鍵をかけずに自由に暮せる工夫していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1ユニットであるが、居室部分が1階2階と分かれているため、各居室で過ごされている利用者に対し、担当職員を置き、安全に過ごされているか状況を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を把握し管理が過剰にならないよう、管理すべき物、注意すべき物については、職員が管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、日々の申し送りにより情報を共有し方が一事故が起こった場合、事故報告書の作成と今後の予防を検討し、家族への説明と報告を行なっている。	○	万が一の事故が起こった場合に、事故報告書を作成し、事故原因の今後の対策について検討し、速やかに行政に連絡できる体制をつくっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現在、行なえていない。	○ 救急救命法等の講習、訓練を早急に実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在、行なえていない。	○ 防災訓練を定期的実施し、消防署や地域住民の方にも協力を呼びかけ職員と利用者が一緒に訓練を行ってきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状況に応じて考えられる危険性を理解している。家族への説明を行い理解を得られるよう、努めている。	○ 重度化、高齢化により、リスクが増えていく中で、状況変化に応じて繰り返し話し合い、理解を深めていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日行い、利用者一人ひとりの普段の様子を把握している。体調変化、異常があれば早期発見するように努め、管理者に報告している。状況によっては早目に家族に連絡し、病院受診している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は毎食後徹底している。服薬ファイルを作成しているが、全職員が内容を把握できるに至っていない。利用者の状況変化があれば医師の診断を受け、必要であれば、投薬内容を変更してもらっている。	○ 服薬内容を全職員が把握するよう努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食品、野菜、乳製品など栄養バランスを考えた食事、おやつを取り入れている。便秘がちな利用者に対しては、個々の排泄ペースを把握し、必要に応じて下剤を服用、また腹部マッサージを行なうなどして、自然排便を促すための工夫をしている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、個々に応じて歯磨き、義歯洗浄などの支援を行なっている。自力で口腔ケアができない利用者に対してはうがい、スワブにて口腔ケアを行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好について把握し、食事、水分摂取量を毎日チェック表に記録している。嚥下能力に応じて普通食、刻み食、ミキサー食など配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者職員とも手洗い、うがいを徹底している。インフルエンザ予防注射は毎年入居者、職員とも実施している。施設内で起こる得る感染症についてのマニュアルは作成されておらず職員の教育も出来ていない。	○	健康診断やインフルエンザ予防接種を行う。特に職員には出勤、外出、退勤時の手洗いを励行していく。感染症についてのマニュアルを早急に作成し全職員で学習し予防、対策に努める。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん、タオルは漂白し、清潔を心掛けている。冷蔵庫内には材料の残りを置かないよう点検し、掃除している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横の花壇に花を植え、プランターを置き、明るい雰囲気になるよう心掛けている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビング、玄関には季節感のある装飾を行っている。常に清潔を保つよう、毎日清掃を行っている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル、椅子、ソファがあり、一人で過ごしたり、他の利用者と関わることのできるスペースを作っている。また、六畳の座敷があり、冬の間はこたつを置き、ゆっくりくつろげるように工夫している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

徒歩五分程度で現在開発中の国道に出かけられるので、徒歩や車椅子介助にて、ゆっくりと買い物や散歩等をして頂ける。また、すぐ近くに緑豊かな公園がある為、気分転換に適している。  
これからではあるが、特にアピールしていきたいのは、他に劣らない職員のチームワーク、意識、ケアの向上を小規模でアットホームながらも目指していきたい。